

背振全山縦走

【報告・参加者】T 寄

【日 時】2018年4月28～29日 【天 候】晴れ

《コースタイム》

JR原田 12:30→13:25 基山→16:02 九千部山 15→17:20 七曲峠→18:49 蛤水道 19:00→20:35 背振山 45→21:43 椎原峠→22:37 小爪峠→23:50 金山水場 00:00→01:10 三瀬峠 01:35→03:02 井原山 20→04:00 雷山 10→05:20 長野峠→07:05 羽金山 20→09:00 荒川峠 10→10:05 女岳→10:35 荒谷峠 45→11:35 浮嶽→12:54 十坊山 13:10→14:03 まむし温泉

《 報 告 》

いつもはJR原田駅横のパン屋で昼食をするが、今日は駅正面の石のベンチで大型おにぎりを頼張る。今回の食糧は、山崎の薄皮あんぱん・チョコレートぱん・クリームぱんのトリオである。過去の残雪期山行でも使用していたが、水が無くても食べやすく、1ヶ100kcalが5ヶも入って140円とコスパも凄い。あん2袋・チョコ1袋・クリーム1袋の4袋で合計20ヶを休憩の時に2ヶずつ食べる計算で持参した。非常食はバーゲンで買ったカロリーメイトを2箱。食費は780円とカロリーバー2本分と同じ安さである。水は、プラティパス20とペットボトル2本の合計30を準備した。

ロングタイツにショートパンツ、スキンメッシュとモンベルの長袖ジップシャツ、足はサロモンのトレランシューズとゲイター、靴下はモンベルのサポータック・ショートソックスを試してみようと新調した。緊急時用はピコシェルターとレスキューシートにしたので、いつもザックにしまっているストックではなく四国を歩き遍路した時の金剛杖にした。今山行は同行二人、お大師さまと一緒に心強い限りである。

お四国詣りは、十数年来の単身赴任を解消して(会社を辞めて)帰福した年(50才)に35日で結願した歩き旅であった。以前から薄々感じていた放浪癖が自分にあることをしっかりと認識した旅であったし、役小角や千日回峰行者等に憧れを持ち始め、放浪の狼や韋駄天に益々と傾倒して行く始まりであった。

歩き始めはゆっくりのつもりでも、なかなか歩調が取れずに、基山の上りで大汗をかき、大峠から九千部山頂まではしんどいなあ〜と思うのはいつものことである。

七曲峠・坂本峠・永山峠とアップダウンを繰り返して、蛤水道の水を飲んだら一段落して、蛤岳の上りから歩調も落ち着いてグッと楽になる。

背振のトラバース道に入ってヘッドランプを点けるが、月齢12の明るい月に後ろから照らされて、後ろに仏様が居られるような、仏様に見守られているような気がする。これが同行二人なのかと、なんか勝手にわかったような気持ちになってしまった。

いつもの様に背振自販機でコーラを買い、飲み残しを陽希風にザックポケットに突っ込む。これだと歩きながらも、ペットボトルの出し入れが楽である。背振では東屋まで車を乗り入れた3家族がキャンプをしていた。

椎原峠を通過し、獵師岩山で月光に白く浮かび上がった石楠花を堪能する。金山山頂には寄らずに水場へ直行する。金山の水場で補給し、三瀬峠で大休止。靴を脱いで足裏と指をマッサージする。クイックシューレースは靴の脱ぎ履きが超楽・超早。

井原山は楽に上れ、山頂で左右の夜景を堪能したが、風を避けて窪地でクリームぱんを食べた途端に

眠気がして来た。クリームぱんに眠り薬が入れられていたのではないかと思う位に…。

雷山までに危険箇所は無いという潜在意識があるから眠気に襲われるのか、途中の大岩の上で横になり、枯草の上に腰を下ろすと5分ずつ寝入ってしまった。寒さで目が覚め、寝入り、目が覚めの繰り返しであったが、雷山の下りでヘッドンの電池を交換し、ライトが明るくなったら完全に目が覚めた。

長野峠から少し進んだ左斜面が広範囲に伐採されていた。O原さんのレコを読んでいたが、暗い時間にここを通っていたら難渋したかもしれない。羽金山の水場では補給せずに通過し、羽金山の最後の急坂を立ち止まることもなく電波送信所に着くことが出来た。送信所前で靴を脱いで休憩する。

羽金山を下りきった安心感からか、あと3座と数えてしまったからか、荒川峠の切株に腰を下ろしてしまった。精神的なものから来ているのか、足の筋力が落ちているのか、上りよりも下りの方が疲労を感じるようになってしまった。ゴルフもスコアを頭の中で数えだしたら途端に乱れてしまうし、マラソンもタイムを気にしたら足が止まるのと同じであろうか、明鏡止水の境地で淡々と歩くのは、なかなか難しいものである。

去年は6月でも問題なく歩けた羽金山前後の茨道、3月・4月と暖かい日が多かったからか、成長し繁茂した茨や野バラにかなり引っ掻かれてしまった。予定している5月・6月の全山は止めて、ジョグトリのウルトラマラソンに連月で参戦しようかと思っている。明鏡止水の境地の訓練には、これも打って付けである。

ヨッコラショと腰を上げ女岳を目指す、小ピークを3つ程越えるので、真名子分岐までが精神的になかなか遠い。女岳山頂では男性が石に腰を下ろしてタバコを吸っていた、背振山以来の人である。此処は挨拶だけ交わして荒谷峠へ。浮嶽の登り口で靴を脱いで足を労わる。浮嶽山頂は6人の男女がシートを広げて休んでいた。流石に地元の人々の信仰を集めている人気の山である。お社に柏手を打って通過する。サロモンのトレランシューズは、浮嶽の落ち葉の下りも滑らずに快適であり、モンベルのサポーターテック・ショートソックスとの相性も良かった。インナーソールをいつも使っているランニング用に替えたならアルプスでも十分に使えるようである。

白木峠からの急坂を青空を見ながら辛抱すれば20数分で最後の十坊山に到着する。此処はいつ来てもファミリーに人気の山である。孫のような児達を眺めていると、つい笑顔がこぼれる。靴のおかげか、まむし温泉までのミカン畑の舗装路も足がさほど痛くならずに歩けた。

温泉のベンチに腰を下ろして、留守宅のO森さんと家内に下山のメールを送る。今回は少し時間がかかったが、何はともあれ無事に完歩出来た。

使用した水の量は、持参30+補給1.50+コーラ0.50-残り1.50=3.50

初日の基山・大峠までは暑かったが、その後は風もあり、今回の水の消費量は意外と少なかった。

単独無泊の脊振全山縦走に取り組んで7年目、正確な回数は覚えていないが10回はとうに超えた。トレーニングとしては脊振山系を登り続けるが、無泊は今回を最後として、ツェルトを使ったファストバックの形態に替えようと思っている。70歳までにテント泊で北アルプスの全山と主要ルートに足跡を残すことを今後の目標と設定したので、それに向けたトレーニングを行っていききたいのである。

残念ながら残された年数は短く、体力と環境適応力は落ちてきた。焦る気持ちはあるが、そこを淡々とこなしていきたい。ただ困っているのは、奥州・陸奥や白河・会津、更には花巻・雫石方面、すなわち東北方面への憧れが勝ってきていることである。この放浪癖を鎮めないで、金銭的にも山の目標が遠ざかってしまいそうである。

『年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず』